

鈴木敏文とセブン&アイグループの歩み

※赤字は鈴木敏文の出来事 ※団体名は当時のものです

1932年	13歳	長野県埴科郡坂城町に生まれる
1946年	19歳	小県蚕業学校(長野県上田市現上田東高校)へ入学
1952年	25歳	中央大学経済学部へ入学
1953年	26歳	中央大学全学自治会書記長に最年少で選出される
1956年	29歳	出版取次大手、東京出版販売(株)(現(株)トーハン)へ入社。新設の出版科学研究所へ配属され、統計学と心理学を学ぶ
1959年	26歳	結婚
1962年	29歳	弘報課でPR誌『新刊ニュース』の紙面を刷新。部数を5000部から13万部へ伸ばす
1963年	30歳	(株)ヨーカ堂(現(株)イトーヨーカ堂)へ転職。販促を担当する
1965年	32歳	ヨーカ堂、商号を「(株)伊藤ヨーカ堂」に変更(9月1日より店名表記は「イトー・ヨーカ堂」に)
1968年	35歳	人事課長も兼務し、新入社員採用のため全国の高校を駆けまわる。以降、セルフチェック制度、週休二日制など、人事の仕組みをつくる
1969年	36歳	伊藤ヨーカ堂、店名表記を「イトー・ヨーカ堂」から「イトーヨーカ堂」へ変更
1971年	38歳	人事部門・販促部門の総括マネジャー(GM)に 伊藤ヨーカ堂、ベニマルとの共同出店となった東北初の店舗「イトーヨーカ堂郡山店」を開業 伊藤ヨーカ堂社名を「(株)イトーヨーカ堂」に改称
1972年	39歳	イトーヨーカ堂取締役に就任 清水秀雄店舗企画部GMらとともにアメリカ視察 イトーヨーカ堂、東京証券取引所第二部に上場 企業広告『ビッグ・チェーンが当面する問題点イトーヨーカドーはこうチャレンジします』
1973年	40歳	シリーズ(日本経済新聞月一回)を企画。掲載開始 チェーン・オペレーション・システムなどに関する米国視察。生産性の向上、技術改善、人材育成などをテーマに、メーカー、レストランチェーンなどを視察 イトーヨーカ堂、紅丸商事との業務提携。10月には商号を「(株)ヨークベニマル」に変更 イトーヨーカ堂、米国アニーズ社とライセンス契約 イトーヨーカ堂、米国サウスランド社(現T Eleven, Inc.)と正式提携交渉開始 イトーヨーカ堂、米国サウスランド社との経済条件交渉、基本的合意に達する イトーヨーカ堂、東京証券取引所第一部に指定替え (株)デニーズジャパン設立 (株)ヨークセブン(現(株)セブン・イレブン・ジャパン)設立。専務取締役に就任 イトーヨーカ堂、米国サウスランド社とエリアサード・ライセンス契約を締結 米国サウスランド社のチェーンシステム研修のため第2陣として出発
1974年	41歳	イトーヨーカ堂、1974年2月期において、売上高が初めて1000億円台を突破 デニーズ1号店、イトーヨーカドー上大岡店(神奈川県横浜市内)にオープン ヨークセブン、国内1号店となるセブン・イレブン豊洲店(東京都江東区)をオープン ヨークセブン、日本で初めてのリーチインケース(扉付き冷蔵陳列ケース)導入



イトーヨーカドー上大岡店内にオープンしたデニーズ1号店(1974年)。



1972年、上場を機にスタートしたシリーズ広告。当時販売促進の責任者であった鈴木と企画制作会社との協力で生まれた企画であった。



清水秀雄店舗企画部GMらとともにに行ったアメリカ視察(1971年)。



店名を「イトー・ヨーカ堂」に(1965年)。



東京出版販売時代。

1975年	42歳	ヨークセブン、セブン・イレブン虎丸店(福島県郡山市)で24時間営業を開始
1976年	43歳	ヨークセブン、山崎製パン(株)の協力を得て正月三が日のパンの製造配送を実現 ヨークセブン、新築された松戸研修センターでセブン・イレブンのオーナートレーニング(開業前研修)開始
1977年	44歳	ヨークセブン、1号店開店から2年でセブン・イレブン国内100店舗を突破
1978年	45歳	ヨークセブン、弁当陳列ケースの導入を開始。卓上型冷蔵ケースでスタート ヨークセブン、デイリー商品の共同配送を首都圏より開始。以降、チルド・加食・雑貨などにも拡大 テレビコマース開始。「セブン・イレブンいい気分」あいてて良かったのキャッチフレーズでテレビ朝日から放映 ヨークセブン、商品の小ロット小分け納品化を促進 イトーヨーカ堂「経営方針説明会」スタート。幹部社員を集めたダイレクトコミュニケーションの実施 イトーヨーカ堂常務取締役に就任 ヨークセブン、「(株)セブン・イレブン・ジャパン」に社名変更 セブン・イレブン・ジャパン代表取締役社長に就任。
1979年	46歳	代表取締役会長は伊藤雅俊 セブン・イレブン・ジャパン、新卒定期採用を開始 セブン・イレブン・ジャパン、弁当オープンケースの開発導入 セブン・イレブン・ジャパン、米国サウスランド社とのエリアサービスおよびライセンス契約に関する当事者の地位をイトーヨーカ堂から継承 セブン・イレブン・ジャパン、発注端末機ターミナルセブンを日本電気(株)と共同開発、長野県から導入開始 セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン国内500店舗を突破 セブン・イレブン・ジャパン、日本型ファストフードとして開発を始めたおにぎりで、業界初の手巻きタイプを発売。大ヒット商品に セブン・イレブン・ジャパン、ベンダーオンライン専用ネットワーク当時野村コンピュータシステム(株)(現(株)野村総合研究所)使用開始 セブン・イレブン・ジャパン、設立からわずか6年で東京証券取引所第二部に上場。当時の史上最短記録を突破 セブン・イレブン・ジャパン、日本デリカファース協同組合設立 イトーヨーカドーグループの呼称を「IYグループ」に変更、グループロゴも制定
1980年	47歳	セブン・イレブン・ジャパン、新型ターミナルセブンの導入 セブン・イレブン・ジャパン、日本の流通史上初となる牛乳の共同配送システム(メーカー各社集約化)開始 イトーヨーカ堂、イトーヨーカドー100店舗を突破 セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン国内1000店舗を突破 イトーヨーカ堂、1981年2月期決算で三越を抜いて小売業で初めて経常利益日本一へ
1981年	48歳	セブン・イレブン・ジャパン、東京証券取引所第一部に指定替えとなる イトーヨーカ堂、中間期決算で一転、創業来、初の減益に陥る セブン・イレブン・ジャパン、日本通運のペリカン便と業務提携し、宅配便の取次サービスを開始



発注端末機ターミナルセブン(1978年)。



1978年、日本初の小型多段型オープンケースを導入。1990年には、米飯を最もおいしく保てる20℃の恒温ケースを導入(写真は1990年頃の恒温ケース)。



ホテルニューオータニ(東京)で100店舗達成記念パーティーが開催された(1976年)。



24時間営業店(1975年)。



1982年	49歳
1983年	50歳
1984年	51歳
1985年	52歳
1986年	53歳
1987年	54歳
1989年	56歳
1991年	58歳
1992年	59歳
1993年	60歳
1994年	61歳

- ・イトーヨーカ堂、本部と店舗間のコミュニケーション確立のため、毎週月曜日の店長会議をスタート
- ・イトーヨーカ堂、「業務改善プロジェクト」(のちに「業務改革委員会」と改称)発足。「業革」が始まる。**プロジェクトリーダーに**
- ・セブン・イレブン・ジャパン、コピーサービス開始
- ・セブン・イレブン・ジャパン、POS(販売時点情報管理)システムスタート、TC(ターミナルコントローラー)、POSレジスターの開発導入
- ・セブン・イレブン・ジャパン、発注用端末機E.O.B(電子発注台帳)の導入を開始
- ・イトーヨーカ堂、経営方針説明会を実施し、「変化への対応と基本の徹底」をスローガンに掲げる
- ・セブン・イレブン・ジャパン、日本初の本格的POSシステムの全店導入完了
- ・**イトーヨーカ堂専務取締役役に就任**
- ・イトーヨーカ堂、業務改革7つのフェーズ発表
- ・第1回IYグループ経営方針説明会を実施
- ・セブン・イレブン・ジャパン、パラスチート式手巻おにぎり新発売
- ・セブン・イレブン・ジャパン、おでんの全国展開開始
- ・1985年2月期IYグループ連結決算で営業収益1兆円を突破
- ・セブン・イレブン・ジャパン、調理麺を新発売
- ・**イトーヨーカ堂取締役副社長に就任**
- ・セブン・イレブン・ジャパン、双方向POSレジスターの導入
- ・イトーヨーカ堂、加工食品の共同配送システムが首都圏でスタート
- ・セブン・イレブン・ジャパンで業務改革が始まる
- ・セブン・イレブン・ジャパン、米飯・調理パン賞味期限表示開始
- ・セブン・イレブン・ジャパン、米飯共同配送3便制を開始
- ・セブン・イレブン・ジャパン、東京電力(株)の料金収納代行業務で初の公共料金取り扱いを開始
- ・セブン・イレブン・ジャパン、フランチャイズ契約更新約定作成
- ・セブン・イレブン・ジャパン、1号店であるセブン・イレブン豊洲店の契約更新
- ・**(社)日本フランチャイズチェーン協会会長就任**
- ・SEVEN-ELEVEN(HAWAII, INC. 設立。**代表取締役社長に就任**
- ・セブン・イレブン・ジャパンとイトーヨーカ堂、米国サウスランド社に対し資本参加。経営再建に参画することで基本合意
- ・(株)シヨップ・アメリカ・ジャパン設立。**代表取締役社長に就任**
- ・セブン・イレブン・ジャパン、カタログショッピング「シヨップ・アメリカ」取り扱い開始(94年10月休刊)
- ・セブン・イレブン・ジャパンとイトーヨーカ堂、経営が悪化した米国サウスランド社の株式を取得し経営再建を開始。3年目に黒字転換を果たす
- ・セブン・イレブン・ジャパン、新POSレジスターの導入開始(第4次総合店舗情報システムの確立)
- ・イトーヨーカ堂代表取締役社長およびIYグループ代表に就任
- ・セブン・イレブン・ジャパン代表取締役会長兼CEOに就任
- ・米国テキサス大学で「**セブン・イレブンの経営哲学**」と題して講演
- ・セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン国内5000店舗を突破
- ・セブン・イレブン・ジャパン、オリジナルパン「焼きたて直送便」の展開を北海道エリアでスタート(2002年に全国展開完了)
- ・セブン・イレブン・ジャパン、会社設立20周年事業として「セブン・イレブンみどりの基金」設立
- ・**第19回「経済界大賞」受賞**
- ・セブン・イレブン・ジャパン、1994年2月期の経常利益小売業トップに(881億1000万円)



レジ横に募金箱を設置して釣り銭の寄付など、お客様にも協力を呼びかけた(1993年)。



チームMDによる焼き立てパンには、焼成後もおいしい冷凍生地を使用。1993年のテスト販売ではパン全体の売上が2.5倍に。



米国サウスランド社再建支援スタート(1991年)。



セブン-イレブンの公共料金収納代行サービスがスタート(1987年)。



セブン-イレブン全店へPOSシステム導入開始(1982年、第2次総合店舗情報システム)。



「業務改善プロジェクト」スタート。毎週1回幹部社員を集め、ダイレクトコミュニケーションを実施(1982年)。

2004年	71歳
2003年	70歳
2002年	69歳
2001年	68歳
2000年	67歳
1999年	66歳
1998年	65歳
1997年	64歳
1996年	63歳
1995年	62歳

- ・**(任)日本チェーンストア協会会長に就任**
- ・「**財界賞経営者賞**」受賞
- ・初めてとなるグループマーチャンダイジング(MD)商品を発売
- ・雑誌『**東洋経済**』主催「**東洋経済賞**」受賞
- ・(株)芝パーク出版(後(株)セブン&アイ出版)設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、発注精度向上のため、気象情報会社(株)ウェザーニューズと共同開発した気象情報システムの全店導入
- ・中国に成都伊藤洋華堂有限公司(日本名:成都イトーヨーカ堂)設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、1997年2月期決算で経常利益が小売業で初めて1000億円を突破
- ・**総理府国民生活審議会委員に就任**
- ・**監綬褒章受賞**
- ・**(社)経済団体連合会副会長に就任**
- ・成都イトーヨーカ堂、中国・成都に1号店「成都イトーカドー春熙(しゅんき)店」開店
- ・セブン・イレブン・ジャパン、第5次総合店舗情報システムの導入開始
- ・イトーヨーカ堂、中国・北京に1号店「華糖イトーヨーカドー十里堡店」を開店
- ・**第14回「企業広報賞優秀経営者賞」受賞(財)経済広報センター主催**
- ・小渕政権下で経済戦略会議の委員に就任
- ・イトーヨーカ堂、1999年2月期の連結営業収益(3兆2670億円)がダイエーを抜き小売業日本一に
- ・**(任)日本チェーンストア協会会長に再度就任**
- ・米国サウスランド社、T-Eleven, Inc. に社名変更
- ・小渕政権下で産業競争力会議の委員に就任
- ・イーショッピング・ブックス(株)(現(株)セブンネットショッピング)設立
- ・**紺綬褒章受賞**
- ・セブン・イレブン・ジャパン、イーエスブックス取り扱い開始
- ・インターネットによる書籍販売の代金収納開始
- ・(株)セブンドリーム・ドットコム設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、オリジナルカップ麺「有名店ラーメンシリーズ」発売
- ・**森政権下で産業新生会議の委員に就任**
- ・T-Eleven, Inc. ニューヨーク証券取引所に13年ぶりに再上場
- ・(株)セブン・ミールサービス設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、2001年2月期のチェーン全店売上高、スーパー最大ダイエーを抜き小売業トップに(チェーン全店売上高:2兆466億4000万円)
- ・セブン・イレブン・ジャパン、オリジナルフレッシュフードに原材料、アレルギー表示を実施
- ・(株)アイワイバンク銀行(現(株)セブン銀行)設立。国内初のATMによる決済中心の銀行が誕生
- ・セブン・イレブン・ジャパン、「保存料・合成着色料」を使用しないオリジナルフレッシュフード商品を販売
- ・(株)アイワイ・カード・サービス(現(株)セブンカードサービス)設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、こだわりおむすびを発売
- ・セブン・イレブン・ジャパン、調味料プロセスセンタースタート
- ・セブン・イレブン・ジャパン、「マルチコピー機」を活用したチケットサービスなどの取り扱い開始
- ・**勲一等瑞宝章受賞**
- ・IYグループ代表およびイトーヨーカ堂代表取締役会長兼CEOに就任
- ・セブン・イレブン・ジャパン、国内小売チェーンとしては初めて世界最大規模の1万店舗を突破
- ・セブン・イレブン・ジャパン、足立区でマルチコピー機を活用した行政サービス提供を開始
- ・**(学)中央大学より日本人では初の名誉博士号を授与される**
- ・合併会社セブン・イレブン北京有限公司を設立
- ・セブン・イレブン・ジャパン、和歌山県と「地域協



中央大学名誉博士学位贈呈式にて(2003年)。



ポイント機能とクレジット機能を併せ持つアイワイカード(2001年)。



オリジナル商品から保存料・合成着色料の排除を実施(2001年)。



流通業界初の銀行、アイワイバンク銀行設立。5月よりATMサービス開始(2001年)。



四川省成都市に出店した「成都イトーカドー」1号店の春熙店(1997年)。



グループMDによる開発商品第1号の衣料用洗剤「シュート」と、グローバル開発商品の先駆となった「クラシック・セレクション・コーラ」(1994年)。

2014年	81歳	2013年	80歳	2012年	79歳	2011年	78歳	2010年	77歳	2009年	76歳	2008年	75歳	2007年	74歳	2006年	73歳	2005年	72歳
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

・セブン・イレブン・ジャパン、野菜の鮮度を保つ
コールドチェーン（低温物流）を全国に整備

・セブン＆アイ・ホールディングスを設立。

東京証券取引所第一部上場。

代表取締役会長兼CEOに就任

（学）中央大学理事長に就任し、大学改革に着手

・セブン・イレブン・ジャパン、株式の公開買い付けを終了し、7-Eleven, Inc. を完全子会社化

・セブン＆アイ・ホールディングス、2006年2月期決算で営業利益が過去最高に

・セブン＆アイ・ホールディングスとして初の合同入社式を実施（9社1113名）

・（株）ミレニアムリテイリング（現（株）そごう・西武）をセブン＆アイ・ホールディングスの完全子会社化

・（株）ヨークベニマル、株式交換によりセブン＆アイ・ホールディングスの完全子会社化

・流通業界初の独自の電子マネー「nanaco」（ナナコ）導入開始

・グループMDで開発したプライベートブランド「セブンプレミアム」をグループ店舗にて販売開始

・セブン・イレブン・ジャパン、唐揚げ、コロッケなど、フライヤー（揚げ物調理設備）による揚げ立て商品のカウンター販売を開始

・セブン・イレブン中国有限公司を設立

・ショッピングサイト「セブン・イレブンネット」がスタート

・（株）セブン＆アイ・ネットメディア（現 Spirex（株））を設立

・7-Eleven, Inc. 世界各地のエリアライセンスを東京に集め、「ライセンシリーダーサミット」を開催

・中国・上海にセブン・イレブン初出店

・セブン・イレブン北京、中国・天津に出店を開始

・セブン＆アイグループの総合ネット通販サイト「セブンネットショッピング」サービス開始

・セブン・イレブン・ジャパン、「近くて便利」をコンセプトに、品揃えの大幅見直しを開始

・（一財）セブン・イレブン記念財団を設立。「セブン・イレブンみどりの基金」の業務を移行

・「セブンプレミアム」のワンランク上の商品群「セブンプレミアムゴールド」誕生

・セブン・イレブン成都有限公司を設立

・世界のセブン・イレブンが4万店舗を突破

・紺綬褒章受章

・セブン・イレブン成都、中国・成都市に1号店を開店

・セブン＆アイグループ、東日本大震災の発生に対し、被災地へ緊急支援物資をお届け

・セブン・イレブン・ジャパン、移動販売「セブンあんしんお届け便」を開始

・セブン・イレブン・ジャパン、初の仮設店舗が宮城県気仙沼市と岩沼市に各1店舗開店

・セブン・イレブン・ジャパン、韓国のコリアセブンと契約、包括的な支援サービスを開始

・セブン・イレブン・ジャパン、チェーン全店売上高3兆円を突破。国内小売業単一チェーンとしては初

・セブン・イレブン天津商業有限公司を設立

・セブンプレミアムと「SEVEN CAFE（セブンカフェ）」を発売

・世界のセブン・イレブンが5万店舗を突破

・セブンゴールドより「金の食パン」を発売

・「SEVEN CAFE Donut（セブンカフェドーナツ）」を関西地区より順次発売、2015年8月に全国展開

・セブン・イレブン、コンビニエンスストア業界初となる外国人旅行者などへの免税販売を開始



流通業界初の電子マネー「nanaco」がスタート(2007年)。



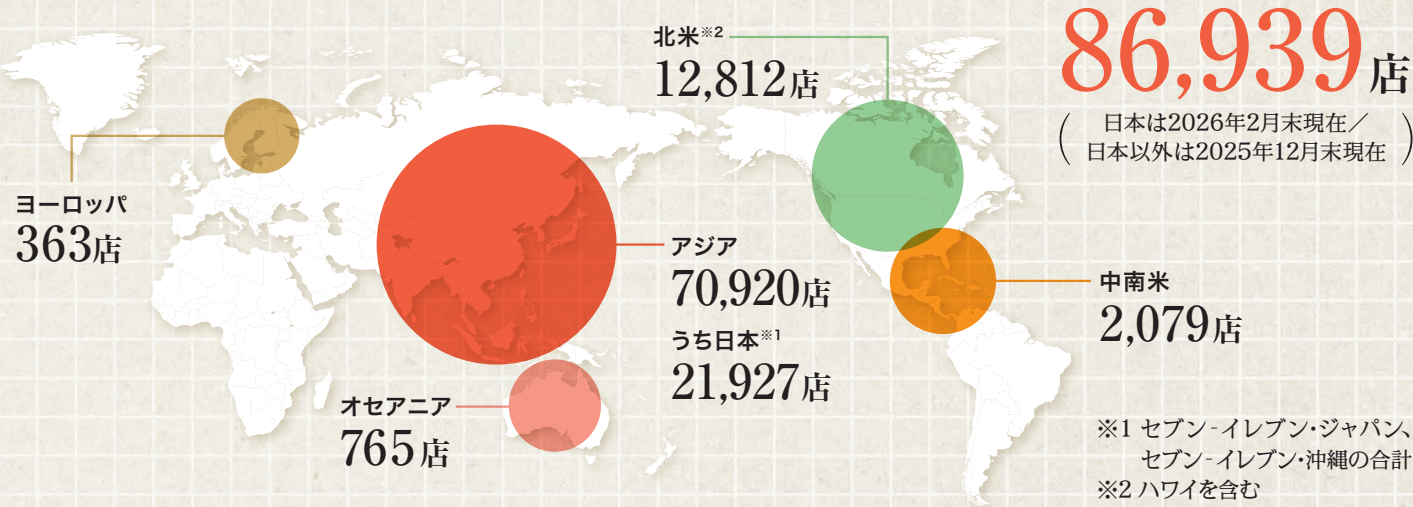
ヨークベニマル完全子会社化。グループの食品スーパー事業の業務統合を推進(2006年)。



セブン＆アイ・ホールディングス設立、「新・総合生活産業」誕生へ(2005年)。

グローバルブランド『7-Eleven』の展開

セブン・イレブンの店舗数



営業収益	従業員数	1日あたりの来店客数
10.4兆円	35,967名	グローバル 約6,240万人 国内 約2,000万人

2026年	93歳	2023年	90歳	2022年	89歳	2021年	88歳	2020年	87歳	2019年	86歳	2018年	85歳	2017年	84歳	2016年	83歳	2015年	82歳
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

・「第59回 財界賞」を受賞

・ネットと店舗を融合した総合通販サイト「omni7」ブランドオープン

・セブン＆アイ・ホールディングス代表取締役会長兼CEO退任。名誉顧問に就任

・世界のセブン・イレブンが6万店舗を突破

・「セブンプレミアム」発売から10周年。生鮮食品や日用品・衣料品にも品揃えを拡大し、「セブンプレミアム」「セブンプレミアムゴールド」「セブンプレミアムフレッシュ」「セブンプレミアムライフスタイル」「セブンカフェ」の5つのブランドに再編

・セブン・イレブン・ジャパン、（株）セブン・イレブン・沖縄を設立

・セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン国内2万店舗を突破

・セブン・イレブン・沖縄、沖縄県（那覇市ほか）に初出店。セブン・イレブンの出店エリアが全都道府県に

・世界のセブン・イレブンが7万店舗を突破

・イトーヨーカ堂、前身である「羊華堂」創業から100周年

・セブン・イレブン・ジャパン、大規模災害に対する事業継続基本計画（BCP）を大幅改定

・セブン・イレブン・ジャパンと7-Eleven, Inc. の共同出資により7-Eleven International LLC を設立

・世界のセブン・イレブンが8万店舗を突破

・「セブンプレミアム」15周年、累計販売金額13兆円（同年7月末時点）を突破

・セブン＆アイ・ホールディングス名誉会長伊藤雅俊逝去

・セブン・イレブン・ジャパン、創業50周年

・5月18日、逝去

・政府より従三位を追贈される



セブン・イレブン・ジャパン創業50周年記念式典にて登壇する敏文（2023年）。



セブン・イレブン・沖縄、沖縄県に初出店。那覇市ほか14店オープン（2019年）。